

## 2024年3月31日（日）第二礼拝「逆転の日」エステル9章1～4節

プリムの祭りは、ユダヤ人が虐殺されるその日に彼らの命が守られ、逆に敵に復讐することになったことを祝う祭りです。クリスチャンにとってプリムの祭りは復活祭と似ています。罪のために死ぬべき私たちの代わりにイエス様が死んでくださり、イエス様が復活することで私たちもよみがえり生かされました。

第一番目、プリムの祭りです。プリムのプルという言葉は「くじをひく」という意味です。敵には「死ぬくじ」が当たり、私たちには「生きるくじ」が当たる、これがプリムの祭りです。ユダヤ人を殺そうとしたのはアマレク人ハマン(卑劣な者、高慢な者)でした。その時点から五百年前、神様はサウルに「アマレク人を聖絶せよ。」と言われましたが、サウルは神様の命令に従わず、アマレクの王アガクを生かすという過ちを犯しました。神様は「永久にアマレクと戦う。」と宣言されました。出エジプト後、弱い後続部隊をアマレクが攻撃したからです。このことを知っていたモルデカイはアマレク人ハマンにひれ伏しませんでした。怒ったハマンはユダヤ人全員の殺害の許可を王からもらいましたが、状況は一変してハマンが十字架にかけられる結果となりました。

2023年10月7日のハマスのイスラエルへの攻撃以来、世界は反ユダヤ主義に傾き、ユダヤ人にとって厳しい状況が続いています。そのため、ユダヤ人が祖国イスラエルに帰還するアリヤが増えました。苦境の中で主の御言葉に約束されているアリヤが実現しています。

第二番目、エステルへの祈りです。ユダヤ人が滅ぼされる寸前で状況が逆転した理由は三日間の断食にありました。断食の祈りによって私たちの中にあるハマン(自我)が死にます。エステルが王の前に来た時、王の目には断食したエステルが美しく見えたことでしょう。同様に私たちの自我が死ぬなら神様の目には美しく見えるのです。王はエステルに王国の半分でもあげようと言います。そして、王の力によってエステルの民族であるユダヤ人全員を生かして、逆にユダヤ人を殺そうとしたハマンの一族は滅ぼされてしまいました。こうして、一つの国が生きようになりました。

第三番目、神様の秩序の回復です。友人の教授の妻は高い学歴やそのプライドを十字架のもとに置き、自分の夫に従順することを選んだ結果、その御家庭は回復し、夫婦が愛し合うようになりました。一つの家庭が生きようになったのです。エデンの園で夫婦の関係を壊したのはサタンでした。サタンは、夫を頭とする神様の秩序を壊し、妻が夫に指示を与えるように仕向けました。サタンの声を聞いたエバはアダムに食べてはならない善悪の知識の木の実を食べよう勧めてしまいました。しかし、サタンが壊した神様の秩序を取り戻す時、家庭は回復されます。ハマンの失墜後、神様の祝福はモルデカイに注がれ、彼は勢力を伸ばし、その名声は広がりました。同様に私たちの自我が死ぬ時、イエス様が私たちのうちで生き、神様の働きのためにますます祝福してくださいます。私たちはアブラハムの祝福、イサクの祝福、イスラエルの祝福をいただき、イエス様の再臨に備えましょう。アーメン！